

飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

第 471 回 変更・変化・変革、改革と革命、そして維新・改新

2012.5.6

「変化に対応しよう」「変えよう」…何度となく言い続けてきた。が、恥ずかしい話だが、つい最近、「変える」という行動に対し、日本語には多くの言葉があるに気が付いた。正しく使っていたか、今回は反省の、雑学コラムである。

まず、「変更」「変化」「変革」の違いである。

変更とは、「今までの考え方、やり方を変えないで新しいことだけ、できることだけをつけ加えること」。これでは、結果はほとんど変わらない。しかし、痛みも伴わない。いわゆる、「ノープレイ・ノーエラー」の延長みたいなもの。でも、この「変更」レベルの企業や店舗は多い。

変化とは、「字の如く“化ける”ということ。化けるまで変えるということ」。ということは、今までの考え方ややり方を“化ける”まで変えるということである。しかし、これはえてして痛みを伴う。だから、あまりやりたがらない。「変化しろ！」とは、みんな言う。でも「変更レベル」を変化と言ってしまう。“化ける”までやる。これが変化である。

そして**変革**とは、「過去の成功体験を100%否定し、今までの成功体験を破壊し、新しく創りあげていくこと」。これは「トップ」しかできない。過去の成功体験を捨てることはすごく怖い。そして、「否定から入る」ことって抵抗がある。特に過去の歴史をつくってきた人達だから…。だから、この「変革」は難しい。しかし…今はこれぐらいのことをやらなければいけない時だと思う。「破壊し、新しく創りだすこと＝変革」であると…このように、「変わる」ということにもレベルがある。

次に「改革」と「革命」。この両者の違いの原点は、基準を今までに置くか、未来に置くかの問題。それと、改革は「変化が必ずしも良いことだとは思わない」、革命は「変化は必ず良い結果を生む」という、変化に対する考え方の違いという見方もある。

改革とは、現在施行されている制度を見直し、改めてより優れた制度にする事。現状を変えていくことにより、より良い未来を目指すのが改革である。基盤は維持しつつ、社会制度や機構・組織などをあらため変えること。

革命とは、被支配者階級が支配者階級を倒し政治・経済や社会制度を根本的に変える事。革命は今までのすべてを否定する。理想の未来の実現の為に現状を変えていくことであり、既成の制度や価値を根本的に変革することだ。

では、「維新」、「改新」の違いは何か？

維新、辞書には…「維(これ)新なり」の意。すべてのことが改められて、すっかり新しくなること。明治維新のこと。御一新。…とある。

改新とは、古いものを改めて新しくすること。「制度を改新する」という使い方をする。

変えることに、こんな色々な意味がある。自分自身、果して正しい表現をしてきたらどうか。ついその時の雰囲気によって、使ってきたに違いない。反省を込めて、日本語を正確に話せる日本人になりたいと思う、還暦過ぎのコラムであった。